

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	琉球諸語入門	
科目基礎情報							
科目番号	6029			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生物資源工学コース			対象学年	専1		
開設期				週時間数	4		
教科書/教材	8週目に「はじめての象棋―沖縄の伝統将棋―」（東洋企画）を使用。その他、プリントで補充する。						
担当教員							
到達目標							
①Swadeshの基礎語彙100語をしまくとうばで発音でき、その意味が言える。②しまくとうばで簡単な自己紹介（8～10文）が口頭でできる。③しまくとうばの音を文字（ひらがな・カタカナ・漢字）で表記することができる。④しまくとうばの名詞述語・動詞述語・形容詞述語文について理解し、作文し、口頭で発音できる。⑤しまくとうばで歌が歌える（1曲）。							
ルーブリック							
	達成度目標の評価方法		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベル（可）
Swadeshの基礎語彙100語をしまくとうばで発音でき、その意味が言える。	全10回の小テスト（単語テスト）の実施		100語全てをしまくとうばで発音でき、その意味が言える。		70語以上をしまくとうばで発音でき、その意味が言える。		50語以上をしまくとうばで発音でき、その意味が言える。
しまくとうばで簡単な自己紹介（8～10文）が口頭でできる。	第7週目の中間課題の提出および第15週目の最終課題口頭発表の実施		授業で習った表現を土台にし、しまくとうばでの自己紹介が10文以上用いて口頭でできる。授業で習った表現以外を用いることができる。		授業で習った表現を土台にし、しまくとうばでの自己紹介が8～10文程度用いて口頭でできる。		授業で習った表現を土台にし、しまくとうばでの自己紹介が5文程度用いて口頭でできる。
しまくとうばの音を文字（ひらがな・カタカナ・漢字）で表記することができる。	毎授業の最後に提出する課題の提出		しまくとうばの音をひらがな・カタカナ・漢字を交え、分かち書きし表記しつつ、漢字にルビを振ることができる。		しまくとうばの音をひらがなとカタカナを交え、分かち書きしつつ表記できる。		しまくとうばの音をひらがなで表記することができる。
しまくとうばの名詞述語・動詞述語・形容詞述語文について理解し、作文し、口頭で発音できる。	毎授業の最後に提出する課題の提出および第15週目の最終課題口頭発表の実施		名詞述語・動詞述語・形容詞述語文全てを理解し、作文でき、発音でき、連体形も同様に運用できる。		名詞述語・動詞述語・形容詞述語文全てを理解し、作文でき、発音できる。		名詞述語・動詞述語文・形容詞述語文の違いを理解できる。
しまくとうばで歌が歌える（1曲）	第15週目の最終課題口頭発表の実施		既存のJ-Popソング1曲をしまくとうばに訳し、それをしまくとうばで歌える。		しまくとうばに訳された既存のJ-Popソング1曲を歌える。		しまくとうばに訳された既存のJ-Popソング1曲の一番（Aメロとサビ）を歌える。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この授業では、琉球列島で伝統的に話されて来た琉球諸語（しまくとうば、とも言う。場面に応じて、両方を使用）の次に挙げる5点について学習する。						
授業の進め方・方法	①琉球「諸」語の数・種類・使用地域、②琉球諸語がどの程度危機的な状況にあるか、③個々の言語の下位方言の数・種類・使用地域、④伝統集落と屋取集落の違いとそれらの方言の差異、⑤琉球諸語の内、沖縄島で話される沖縄語（うちなーぐち、とも言う。場面に応じて、両方を使用）の語彙を学び、文にし、それらを読んだり、書いたり、話したりすることをアクティビティを通して学ぶ。 なお、授業に毎回参加し、アクティビティに積極的に参加して、課題をその都度提出することが、評価に直接つながるので、きちんと出席することが重要。						
注意点	『琉球語音声データベース』や『沖縄語辞典(1963)』にオンラインでアクセス可能なため、各自のノートP Cを持参することが望ましい。また、評価の仕方は原則変更はないが、上記の目標・ルーブリックや授業概要、下記の授業計画は、授業の進行状況によって、内容を変更する場合がある。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
評価割合							
	小テスト(語彙・全10回)	ワークシート(毎授業ごと)	中間課題	最終課題(プレゼン)	最終課題(提出)	合計	
総合評価割合	30	20	10	10	30	100	
基礎的能力	25	20	10	5	10	70	
専門的能力	0	0	0	0	10	10	
分野横断的能力	5	0	0	5	10	20	